

授業概要

この授業は、卒業論文又は卒業研究を完成させることを目的として指導する。受講者は専門演習参加者であることを前提に、三年次に決めたテーマを具体的なかたちにすべく、授業を軸にしつつ各人で作業に取り組んでもらう。一年間のスケジュールは、授業外の時間も含めて「相談→実習→経過報告」のサイクルを意識しながら進行する予定である。したがって、毎週必ず全員参加というわけではないが（詳しいスケジュールは事前に説明）、経過報告会には必ず参加して、現状を報告してもらう。

卒業論文（研究）は、これまでの大学生活の総決算である。授業外の時間も使って、自分の考えをかたちにするために邁進してほしい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	春休み課題の確認	第 17 回	経過報告会④
第 3 回	構想の相談①	第 18 回	経過報告会⑤
第 4 回	構想の相談②	第 19 回	図書館実習②
第 5 回	構想の相談③	第 20 回	実施状況の相談④
第 6 回	経過報告会①	第 21 回	実施状況の相談⑤
第 7 回	図書館実習①	第 22 回	実施状況の相談⑥
第 8 回	実施状況の相談①	第 23 回	経過報告会⑥
第 9 回	実施状況の相談②	第 24 回	経過報告会⑦
第 10 回	実施状況の相談③	第 25 回	完成にむけての相談①
第 11 回	経過報告会②	第 26 回	完成にむけての相談②
第 12 回	経過報告会③	第 27 回	完成にむけての相談③
第 13 回	夏休みにむけての相談①	第 28 回	最終確認
第 14 回	夏休みにむけての相談②	第 29 回	予備日
第 15 回	夏休みにむけての相談③	第 30 回	卒業論文又は卒業研究提出日

到達目標

卒業論文又は卒業研究を完成させる。

履修上の注意

授業計画はあくまでも予定である。教員・学生のスケジュールにより変更する可能性がある。卒業論文（研究）の完成は勿論のこと、その他卒業に必要な単位（数）を取得していなければ、卒業できない。単位数に不安のある学生は、卒業論文（研究）製作と同時に必要な単位の取得も心がけてほしい。

予習・復習

授業の目的上、時間外作業が中心となる。定期的に行う経過報告会で、自分の進捗を発表できるように準備を進めること。

評価方法

卒業論文（研究）の提出、およびその内容(100%)。

テキスト

なし。各自の卒業論文（研究）に必要な書籍等については、相談時に紹介する。各人で購入ないし図書館に購入希望を申し込むことを推奨する。

授業概要

メディア文化を中心とした主題で卒業論文、または卒業研究を作成する。3年次の専門演習で設定した研究を深め、参考文献や資料の収集を収集する。

同時に、卒業論文、または卒業研究をわかりやすく伝えることを学んでいく。パワーポイントを使用し、ゼミの仲間とともにディスカッションをし、主題を深めていく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	中間発表 (1)
第 2 回	主題を決める	第 17 回	中間発表 (2)
第 3 回	目次作成 (1)	第 18 回	中間発表 (3)
第 4 回	目次作成 (2)	第 19 回	論文作成 (5)
第 5 回	目次作成 (3)	第 20 回	論文作成 (6)
第 6 回	主題発表 (1)	第 21 回	論文作成 (7)
第 7 回	主題発表 (2)	第 22 回	論文作成 (8)
第 8 回	参考文献と調査方法 (1)	第 23 回	論文作成 (9)
第 9 回	参考文献と調査方法 (2)	第 24 回	論文作成 (10)
第 10 回	論文作成 (1)	第 25 回	論文作成 (11)
第 11 回	論文作成 (2)	第 26 回	論文作成 (12)
第 12 回	論文作成 (3)	第 27 回	論文修正 (3)
第 13 回	論文作成 (4)	第 28 回	研究発表準備 (1)
第 14 回	論文修正 (1)	第 29 回	研究発表準備 (2)
第 15 回	論文修正 (2)	第 30 回	研究発表 (1)
		第 31 回	研究発表 (2)

到達目標

- 各自の主題を基盤とし、論文または研究に関する参考文献と資料を収集することができる。
- 論文作成を完成することができる。
- パワーポイントを使用した発表ができる。

履修上の注意

- パワーポイントを使用した研究発表をする。
- 就職活動等でやむを得ず欠席する場合には、必ず連絡を入れること。

予習・復習

• 各自のすすめ具合により、個々で期日を決めていくため、その日に間に合うよう論文作成、発表をすすめていく。

評価方法

研究発表 50%、卒業論文、または卒業研究 50%。

テキスト

使用しない。

授業概要

大学での研究の総括として、英語学等の専門分野において各自が関心を持つ主題について考察し、その主題について自分の意見をまとめ、卒業論文を書いていただく。まず、テーマの選び方から、資料収集の仕方、文章の書き方、注、参考文献の書き方に至るまで論文の書き方を指導する。その指導を受けながら、受講生は各自の卒業論文の準備を進めることになるが、適宜、研究経過を報告あるいは発表し、そこで得られたフィードバックを論文の内容に活かし、最終的に論文を完成する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	ゼミ生による中間発表(1)
第 2 回	卒業論文とは?—レポートとの違いなど	第 17 回	ゼミ生による中間発表(2)
第 3 回	テーマの選び方	第 18 回	今後の論文作成の計画の作成
第 4 回	論文の主題の決め方	第 19 回	春学期の論文の書き方の復習
第 5 回	参考文献の選び方、読み方	第 20 回	注の書き方：説明
第 6 回	論文の書き方：スケッチ、アウトラインから執筆、完成まで	第 21 回	注の書き方：実践
第 7 回	資料の種類	第 22 回	卒業論文の題目のつけ方
第 8 回	資料の収集の仕方	第 23 回	参考文献の書き方：説明
第 9 回	ゼミ生によるテーマの発表	第 24 回	参考文献の書き方：実践
第 10 回	論文の構成と論旨の展開の仕方	第 25 回	ゼミ生による経過報告
第 11 回	引用の仕方	第 26 回	論文の書き方の指導：実践編
第 12 回	挿入、強調など注意すべきこと	第 27 回	要旨の書き方
第 13 回	基本的な文章の書き方	第 28 回	ゼミ生による卒業論文発表(1)
第 14 回	論文における文章の書き方	第 29 回	ゼミ生による卒業論文発表(2)
第 15 回	ゼミ生による経過報告、参考文献リストの提出	第 30 回	総括

*授業の内容、進度は、ゼミ生の卒業論文の準備の進捗度、ゼミ生の人数等によって若干変更されることがある。

到達目標

自分の力で、英語学等の専門分野において各自が関心を持つ主題を選び、その主題について客観的に考察して意見をまとめ、最終的に論文の書き方に従って卒業論文を書き上げることができる。

履修上の注意

卒業論文を完成するために、受け身の姿勢で臨まずに、次に何をすべきかみずから考えて計画的に論文の準備を行うこと。

予習・復習

授業の内容を理解するために、事前に与えられたハンドアウトを読んで、次の授業の全体像をつかんでおくこと。復習としては、授業で学んだことをいかに各自の論文の準備に応用できるかについて考え、実行に移すこと。

評価方法

完成した卒業論文の内容（80%）を主として、その他、卒業論文への取り組み方（10%）、授業での発表（10%）を加えて総合的に判断する。

テキスト

特になし。ハンドアウトを配布する。適宜、参考書を紹介する。

授業概要

日本近現代文学を対象とする卒業論文、あるいは創作としてなされる卒業研究を書く技法を習得し、学生が自身の卒論・卒研を遅滞なく完成することができるように指導する。なお今年度は4年生の数が少ないため、卒業論文等の発表だけでなく、近現代文学を扱った学術的エッセイを合わせて読んでいき、近現代文学研究の近年の潮流、傾向も知るように促す。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：卒業論文・卒業研究とは	第 16 回	ガイダンス：卒論執筆の注意点
第 2 回	安藤宏『「私」をつくる』を読む①	第 17 回	先行論文研究①
第 3 回	安藤宏『「私」をつくる』を読む②	第 18 回	先行論文研究②
第 4 回	安藤宏『「私」をつくる』を読む③	第 19 回	先行論文研究③
第 5 回	題目発表①	第 20 回	構想発表③
第 6 回	題目発表②	第 21 回	構想発表④
第 7 回	安藤宏『「私」をつくる』を読む④	第 22 回	先行論文研究④
第 8 回	安藤宏『「私」をつくる』を読む⑤	第 23 回	先行論文研究⑤
第 9 回	安藤宏『「私」をつくる』を読む⑥	第 24 回	先行論文研究⑥
第 10 回	構想発表①	第 25 回	問題点発表③
第 11 回	構想発表②	第 26 回	問題点発表④
第 12 回	安藤宏『「私」をつくる』を読む⑦	第 27 回	先行論文研究⑦
第 13 回	安藤宏『「私」をつくる』を読む⑧	第 28 回	先行論文研究⑧
第 14 回	問題点発表①	第 29 回	問題点発表⑤
第 15 回	問題点発表②	第 30 回	問題点発表⑥
		第 31 回	まとめ：卒業論文・卒業研究の提出

到達目標

- ・自身の卒業論文・卒業研究の内容・趣旨についての的確に説明できる。
- ・自身の卒業論文・卒業研究の目的を日本近現代文学研究の系譜に位置付けることができる。
- ・自身の卒業論文・卒業研究の意義を明確に把握し、説明できる。

履修上の注意

この授業は近現代文学のゼミナールに所属する学生のみを対象とする授業である。

予習・復習

予習：自分の研究対象だけでなく、他の発表者の研究対象についてもあらかじめ学んでおくこと。

復習：自身の発表に対する教員あるいは他学生のコメントをよく消化し、今後の研究に反映させること。

評価方法

授業内での発表（80%）、授業参加態度（20%）により評価する。

テキスト

- ・教科書名：『「私」をつくる』
- ・著者名：安藤宏
- ・出版社名：岩波書店（岩波新書）
- ・出版年（ISBN）：2015年

授業概要

本演習では卒業論文の書き方を学ぶ。既に3年次までに特定の言語資料（新聞や漫画）を見定め、分析し、調査データにまとめてあるので、それを用いて卒業論文を執筆するのに必要な知識を学び、実際に執筆することを目標とする。授業の形態としては、授業の進行に従ってパソコンで卒業論文を書き進めながら、随時相談し、問題点を修正していくというものになる。

言語資料は古代から現代まで様々あるが、本演習では現代の新聞（文章語）および漫画（口頭語など）における書かれた言葉を資料とする。これらは国会図書館にも収められており、学術的に利用できる。

授業計画

第1回	授業の進め方の説明と資料の相談	第16回	卒業論文の書き進め（15）
第2回	卒業論文の書き進め（1）	第17回	卒業論文の書き進め（16）
第3回	卒業論文の書き進め（2）	第18回	卒業論文の書き進め（17）
第4回	卒業論文の書き進め（3）	第19回	卒業論文の書き進め（18）
第5回	卒業論文の書き進め（4）	第20回	卒業論文の書き進め（19）
第6回	卒業論文の書き進め（5）	第21回	卒業論文の書き進め（20）
第7回	卒業論文の書き進め（6）	第22回	卒業論文の書き進め（21）
第8回	卒業論文の書き進め（7）	第23回	卒業論文の書き進め（22）
第9回	卒業論文の書き進め（8）	第24回	卒業論文の書き進め（23）
第10回	卒業論文の書き進め（9）	第25回	卒業論文の書き進め（24）
第11回	卒業論文の書き進め（10）	第26回	卒業論文の書き進め（25）
第12回	卒業論文の書き進め（11）	第27回	卒業論文の書き進め（26）
第13回	卒業論文の書き進め（12）	第28回	卒業論文の書き進め（27）
第14回	卒業論文の書き進め（13）	第29回	卒業論文の書き進め（28）
第15回	卒業論文の書き進め（14）	第30回	卒業論文の書き進め（29）

到達目標

- 書かれた言語資料を集めて分析することができる。
- 自分自身で日本語学の分野の論文執筆をすることができる。
- 文章語と口頭語を対照しながら、その言語資料の文体の特性を複数見つけ出して論じることができる。

履修上の注意

「日本語の文法、日本語学（概論）、日本語学（各論）、日本語コミュニケーション、言語学、社会言語学」などの日本語学・言語学系の科目のうち少なくとも一部を既に履修しているか、並行して履修してもらいたい。特に「日本語の文法」は必須なので、未修なら並行履修してほしい。また、エクセルを使うので、苦手な人は使いながら慣れて行く必要がある。「卒業論文の書き進め」では私物または大学のパソコンを用いる。

予習・復習

授業は、各自が自宅または大学で卒業論文の執筆を自発的にコツコツと進めることを前提としている。各自卒業に間に合うように執筆の努力をされたい。

評価方法

発表（80パーセント）、その他受講態度等（20パーセント）で評価する。

テキスト

- 教科書は使用しない。
- 資料については以下のとおり。新聞や漫画は講師が分析済みの資料を配付することも、受講者が用意することもある。新聞は「朝日新聞」の記事をエクセルに書き起こし、分析してある。漫画は複数の作品をエクセルに書き起こし、分析してある。各自が卒業論文に使用するための漫画等の作品については、3年生の春休みの終わりまでに分析を終えている（漫画なら単行本1巻分）。受講者間で作品や作者が異なるようにしたい。

授業概要

<カルチュラル・スタディーズ 映像社会と現代文化の解説>

映画・アニメーション・文学などに反映される文化を分析することで、卒業論文を制作する。学生の興味のある題材を選び出し、先行研究や参考文献を読破して、論文作成への基礎知識を固めると共に、論文の文体、要約の仕方、参考文献の探し方など、基本的な作業を再確認してゆく。その時代や社会を表象する映像や文学テキストを読み解き、現代文化を追求できる卒業論文を執筆できるように指導する。

授業計画

第 1 回	要約の仕方・参考文献の探し方	第 16 回	資料講読 ホラー映画の文化史
第 2 回	先行研究の紹介	第 17 回	資料講読 美少女アニメ
第 3 回	レジメの作成方法	第 18 回	資料講読 ディズニーアニメ
第 4 回	資料講読 アメリカ映画 20 世紀前半	第 19 回	資料講読 クトゥルフ神話
第 5 回	資料講読 アメリカ映画 20 世紀後半	第 20 回	資料講読 H・P・ラヴクラフト
第 6 回	資料講読 アメリカ映画 21 世紀	第 21 回	資料講読 『千と千尋の神隠し』
第 7 回	資料講読 アメリカ映画現代	第 22 回	資料講読 宮崎駿
第 8 回	資料講読 日本映画 20 世紀前半	第 23 回	資料講読 新海誠
第 9 回	資料講読 日本映画 20 世紀後半	第 24 回	資料講読 押田守
第 10 回	資料講読 日本映画 21 世紀	第 25 回	資料講読 手塚治虫
第 11 回	資料講読 日本映画現代	第 26 回	資料講読 ヒーローの文化史
第 12 回	引用のやり方	第 27 回	資料講読 アニメーションの文化史
第 13 回	卒業論文の文体	第 28 回	資料講読 『もののけ姫』
第 14 回	注釈、参考文献の作成の仕方	第 29 回	資料講読 ゲームの文化史
第 15 回	資料講読 スピルバーグの映画	第 30 回	卒業論文の総括
		第 31 回	卒論の発表会

到達目標

- ・学生が卒業論文作成のために参考文献を読み、理解し、研究に引用できる力を備えることができる。
- ・学生が自分のテーマを他者にもわかりやすくプレゼンテーションすることができる。
- ・学生が社会や文化の深層心理を解説する完成度の高い卒業論文を作成することができる。

履修上の注意

楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。資料を多く配布するのでファイルを持参のこと。普段から関心をもって本を読むように心がけてもらいたい。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再度読み直すこと。

評価方法

卒業論文（70%）、授業内発表（30%）で評価する。

テキスト

毎回授業で資料を配布する。また参考文献については適宜指定する。

授業概要

本演習は、学生各人が3年次の専門演習で設定した研究テーマに関する文献や資料（史料）の収集とそれらの読み込み作業を通じて卒業論文の骨格を作り上げるとともに、内容の肉付けを進めながら論文を完成させることを目的とする。演習では各自に研究報告を行ってもらい、受講者全員とのディスカッションにより、卒業論文の内容を練り上げていくこととする。

授業計画

第1回	春期の進め方の説明	第16回	秋期の進め方の説明
第2回	研究報告と質疑応答①	第17回	研究報告と質疑応答①
第3回	研究報告と質疑応答②	第18回	研究報告と質疑応答②
第4回	研究報告と質疑応答③	第19回	研究報告と質疑応答③
第5回	研究報告と質疑応答④	第20回	研究報告と質疑応答④
第6回	研究報告と質疑応答⑤	第21回	研究報告と質疑応答⑤
第7回	研究報告と質疑応答⑥	第22回	研究報告と質疑応答⑥
第8回	研究報告と質疑応答⑦	第23回	研究報告と質疑応答⑦
第9回	研究報告と質疑応答⑧	第24回	研究報告と質疑応答⑧
第10回	研究報告と質疑応答⑨	第25回	研究報告と質疑応答⑨
第11回	研究報告と質疑応答⑩	第26回	研究報告と質疑応答⑩
第12回	研究報告と質疑応答⑪	第27回	研究報告と質疑応答⑪
第13回	研究報告と質疑応答⑫	第28回	研究報告と質疑応答⑫
第14回	春期研究報告の全体的な総括	第29回	卒業論文提出前の最終確認①
第15回	今後の論文作成準備について	第30回	卒業論文提出前の最終確認②

到達目標

- 各自が設定した卒論テーマに関する文献や資料（史料）を収集し、論文作成に活用することができる。
- 卒業論文で何を解明するのかという問題意識を明確化することができる。
- 自分なりの答えを、根拠を示しながら論理的に導き出すことができる。

履修上の注意

- (1) 春期と秋期にそれぞれ研究報告を行うことが単位付与の条件となる。
- (2) 就職活動等でやむを得ず欠席する場合には、必ず連絡を入れること。

予習・復習

- (1) 研究報告に際しては、レジュメを準備する。
- (2) 授業の際に自分の報告に対して提起された教員や他の受講生からの意見や議論を参考にしながら、論文の中身を練り直す。

評価方法

授業に対する姿勢（研究報告の内容と質疑応答への参加）50%、卒業論文 50%

テキスト

使用しない。

授業概要

本演習は英語学、もしくは言語学に関する卒業論文を完成させることを目的とし、学生が3年次に決めたテーマに沿って研究を進め、それを論文にしていくために必要な指導を行う。春期は主に学生が3年次に集めた用例の言語分析ができるようになることを目標とし、それに必要な言語理論についての講義を行う。秋期は1ヶ月に1度の研究報告を交えながら、学生が論文執筆を進められるよう指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	卒論テーマと概要の発表	第 17 回	研究報告④、チャプター1～ 提出2
第 3 回	日本語の統語構造 1	第 18 回	論文作成
第 4 回	日本語の統語構造 2	第 19 回	論文作成
第 5 回	日本語の統語構造 3	第 20 回	論文作成
第 6 回	研究報告①、イントロ提出1	第 21 回	研究報告⑤、チャプター1～ 提出3
第 7 回	否定表現の分析 1	第 22 回	論文作成
第 8 回	否定表現の分析 2	第 23 回	論文作成
第 9 回	否定表現の分析 3	第 24 回	論文作成
第 10 回	研究報告②、イントロ提出2	第 25 回	研究報告⑥、チャプター1～ 提出4
第 11 回	パソコンでの統語構造の書き方	第 26 回	論文作成
第 12 回	ソフトウェアを使った統語構造の書き方 1	第 27 回	論文作成
第 13 回	ソフトウェアを使った統語構造の書き方 2	第 28 回	研究報告⑦、コンクルージョン提出
第 14 回	研究報告③、チャプター1～ 提出1	第 29 回	論文作成
第 15 回	春期まとめ	第 30 回	卒論提出

到達目標

- ・3年次に集めた用例の言語分析ができる。
- ・自分のテーマに関する参考文献を正確に読める。
- ・研究目的、言語現象の説明、言語現象の分析についてわかりやすく論理的に文章化できる。
- ・与えられた形式に従った論文が書ける。

履修上の注意

- ・英語学の専門演習（担当船越さやか）を履修していることを前提とする。
- ・授業時間外でも少しずつ論文を書き進めていく。また、授業内の「論文作成」の回では、必要に応じて私物のパソコンを持参する。
- ・就職活動などで研究や論文執筆が進みにくい場合は、その都度相談する。

予習・復習

- ・講義の回では、配布された資料やハンドアウトに目を通し、指示された問題を解いておく。
- ・研究報告ではハンドアウトを作成する。
- ・授業時間外でも少しずつ論文を書き進め、次回提出までに、コメントを参考にして前回分の内容を加筆・修正しておく。

評価方法

卒業論文への取り組み（30%）と卒業論文の内容（70%）から総合的に評価する。

テキスト

テキストは使わない。必要に応じて参考文献を紹介する。講義はハンドアウトを用いて進める。

授業概要

大学での学びの総括として、各自の興味関心から研究テーマを決定し、研究方法を決め、調査し、卒業論文（卒業研究）を完成させることを目的とする。本授業は、専門演習からの引き継ぎとして、自身の研究テーマについて深めてもらう。授業では、受講生による調査・研究の成果を発表してもらうのと、個別指導によって卒論の執筆を進めて行く。なお、授業は、3年生（専門演習受講者）と合同で行う場合もある。

授業計画

第 1 回	春期 ガイダンス	第 16 回	秋期 ガイダンス
第 2 回	春休み課題の発表①	第 17 回	卒業論文 経過報告発表会④
第 3 回	春休み課題の発表②	第 18 回	卒業論文 経過報告発表会⑤
第 4 回	春休み課題の発表③	第 19 回	卒業論文 経過報告発表会⑥
第 5 回	卒業論文 個別指導①	第 20 回	卒業論文 個別指導⑤
第 6 回	卒業論文 個別指導②	第 21 回	卒業論文 個別指導⑥
第 7 回	卒業論文 目次作成・発表①	第 22 回	卒業論文 個別指導⑦
第 8 回	卒業論文 目次作成・発表②	第 23 回	卒業論文 「草稿」発表①
第 9 回	卒業論文 目次作成・発表③	第 24 回	卒業論文 「草稿」発表②
第 10 回	卒業論文 個別指導③	第 25 回	卒業論文 「草稿」発表③
第 11 回	卒業論文 個別指導④	第 26 回	論文執筆①
第 12 回	卒業論文 経過報告発表会①	第 27 回	論文執筆②
第 13 回	卒業論文 経過報告発表会②	第 28 回	論文執筆③
第 14 回	卒業論文 経過報告発表会③	第 29 回	論文執筆④
第 15 回	夏休みに向けた課題の確認	第 30 回	卒業論文 発表会

到達目標

- ・卒業論文を執筆する作業を通じて、学問的な視点・方法論・記述方法を身に付けることができる。
- ・ゼミ生の発表を通じて、他者の考えに対して客観的に批評することができる。

履修上の注意

- ・春期は、教育実習・教員採用試験の準備などで忙しくなるため、3年の間に卒業論文の作業を進めること。
- ・授業では、卒業論文に関する発表と議論を繰り返すことによって、内容のブラッシュアップを図る。自身の発表には真摯にのぞみ、議論の内容を真摯に検討すること。
- ・卒業論文は、主体的に取り組まなければ完成しないものである、1年間を通じて計画的・主体的に取り組むこと。

予習・復習

- 予習：自身の研究テーマに関する、先行研究等を勉強する。
 復習：授業での教員からの意見、ゼミ生からの意見などを検討し、論文に反映させる。

評価方法

- ・受講態度・授業発表（30%）、卒業論文（70%）

テキスト

- ・必要に応じて資料を配付する。
- ・参考資料・授業中に使用する資料などは、適宜配付する。